

私が音楽療法士として仕事を始めたのは、イギリスから帰国後の1992年です。なので昨年でちょうど30年目となりました。光陰矢の如し！ 1980年代に「音楽療法」という言葉を耳にし、1990年に日本の音楽療法の草分けともいえる山松質文氏と出会い、そこから私の音楽療法の旅が始まりました。皆様もそれぞれの歩んでこられたストーリーをお持ちだと思います。私自身まだまだ成長過程ですが、多くの関りから自分なりに学んだこと、変化してきたこと、あるいは変わらないもの、などを振り返りつつ、お話しさせていただければと思っています。後藤浩子氏が聞き手となってくださるので、楽しく進められることでしょう。

予定内容は以下の通りです。

- ① 山松質文氏の治療哲学から受けたもの
- ② ノードフ・ロビンズでの経験
- ③ 実践から～ 方法や主義にこだわらない・クライアントにとっての最善を追求・セラピストとしての表現の追求・なによりも感性・音楽・感動

プロフィール

大阪教育大学音楽科卒 同大学院修士課程（音楽教育学）修了 ロンドンのシティ大学大学院 Nordoff-Robbins ミュージック・セラピー・ディプロマコースにてPGディプロマ取得（1992年）。日本音楽療法学会認定音楽療法士

同志社女子大学専任講師、相愛大学准教授、大阪教育大学・京都市立芸術大学非常勤講師などを経て、現在、実践を中心にフリーで活動を行う。障がい者福祉施設や診療所での臨床のほか、「相談支援たにまち」の協力事業として「ミュージックセラピーたにまち」を運営。主に発達障がいの子どもの対象に即興技法を用いた音楽療法を実践している。また、朗読とのコラボなどによる即興演奏の公演（姫路文学館など）やアフリカの伝統音楽奏者との即興ライブなども行っている。西宮音楽療法研究会会長 滋賀県音楽療法研究所顧問 相愛大学非常勤講師

著書

『音楽による表現の教育』（共著 晃洋書房）『音楽療法とヒューマニティ』（共著 音楽之友社）『即興による音楽療法の実践』（共著 音楽之友社）『地域実践心理学・実践編』（共著 ナカニシヤ出版）『音楽療法のエッセンス～生きたセッションを体験するために』（単著 音楽之友社）『関係の創造を目指して一実践 音楽療法一』（共著 晃洋書房）
訳本『子どものためのプレイソング』（共訳 音楽之友社）